

SPARC Japan ニュースレターでは、各回セミナーの報告に講演やパネルディスカッションを書き起こしたドキュメントを加え、さらにそのほかの SPARC Japan の活動をご紹介します。

※所属、肩書はすべて開催当時のものです。

## CONTENTS

### ■ SPARC Japan 活動報告

#### 学術情報流通推進委員会

#### 学術情報流通に関する国内外の動向について

### ■ SPARC Japan セミナー報告

#### 企画概要

#### 参加者から

#### 企画後記

#### ドキュメント

#### (講演・ショートディスカッション・パネルディスカッション)

### ■ SPARC Japan 活動報告

#### 学術情報流通推進委員会



学術情報流通推進委員会の会議資料をウェブサイトで公開しています。

<http://www.nii.ac.jp/sparc/about/committee/>

#### 学術情報流通に関する国内外の動向について

学術情報流通のあり方をめぐっては、国内外のステークホルダー（研究者コミュニティ、出版社、研究助成機関、大学図書館等）が、日々様々な検討を行い、取り組みを進めています。SPARC Japan Web サイトでは、こうした動向を取り上げて情報提供を行っています。

欧州の研究助成財団・研究実施機関等は、2018年9月に、公的助成を受けた研究成果の完全で即時のオープンアクセスを実現するためのイニシアティブ、“cOAlition S”の開始を公表しました。同イニシアティブの開始と“Plan S”という10原則が公表されて以降、10か国以上の助成機関がこれに参画し、また研究者等も Plan S の原則を支持する一方で、既存の学術情報を担ってきた出版社や投稿先の制限を懸念する研究者等からは、批判的な見解も述べられています。こうした一連の動向が、ヨーロッパの研究者コミュニティと共同研究を進める日本の研究者コミュニティをはじめ、国内ステークホルダーに将来的に及ぼす影響を考慮して、Plan S とそのガイダンスを試訳するとともに、この方策の実質化を整理した参考資料を作成し、公表しています。

“学術情報流通に関する国内外の動向”

<https://www.nii.ac.jp/sparc/about/overseas/index.html>

## ■ SPARC Japan セミナー報告

SPARC Japan セミナー2019 特別編 (図書館総合展)



## 「オープンアクセスの今とこれから

## ～ステークホルダーの戦略とともに考える～

2019年11月12日(火) パシフィコ横浜 第5会場 参加者:210名

今回は、2018年度第4回セミナーに引き続き人文社会系分野におけるオープンサイエンスをテーマとし、オープンな研究活動が既に展開されている取組に注目しました。事例として、研究者による当該分野の基盤的データの構築と普及や、新たな研究データ作成や研究基盤の構築を目指す市民科学の活動を取り上げ、また様々なかたちで研究データを外部へ繋いでいく役割を担う URA の実践についても紹介し、人文社会系分野のオープンサイエンスを幅広く安定的に展開するためのヒントを共有できる企画といたしました。

次ページ以降に、当日参加者のコメント(抜粋)、ドキュメント全文(再掲)を掲載しています。その他の情報は SPARC Japan の Web サイトをご覧ください。<https://www.nii.ac.jp/sparc/event/2019/20191024.html>

## 企画概要



論文のオープンアクセスについては、オープンアクセスジャーナルの広がりやヨーロッパを中心とした Plan S による即座公開の動き、さらには「ハゲタカジャーナル」への懸念等、注視すべき動向や取り組むべき課題が山積している。主要な公開手段を海外のプラットフォームに依拠する分野や、国際的な共同研究に参画する国内研究者も多く、国際的な連携も踏まえて、こうした動向や課題に対応することが必至である。

本フォーラムでは、NII の学術情報流通推進委員会 (SPARC Japan) に集まったグリーンやゴールド等のオープンアクセスに関わるステークホルダー (JUSTICE、JPCOAR、JST 及び NII) が一堂に会して、現在の学術情報流通に係る動向を俯瞰しながら、オープンアクセスのあり方と今後の日本の取るべき戦略を議論する機会とした。



パネルディスカッション (左から林氏、江川氏、笹渕氏、小賀坂氏、武田委員長)

## 参加者から

・オープンアクセス推進について、機関リポジトリの役割としてのグリーンOAへの対応があるが、なかなか著者である研究者のインセンティブが薄く、多くのコンテンツ収集ができないところがリポジトリ担当者の共通のなやみである。OA化率の調査を広く情報共有していただき、オープンアクセスの意義などを伝えてほしい。

・各団体等からの報告を通して、OA・OSの現状と課題を確認する良い機会となったが、今後の見通しに関してはさほど新しい提言は示されなかった。大学図書館の役割の変化については喫緊の対応が必要と改めて感じた。

・ドイツのDEALに衝撃を受け、これが日本を含む他国にどのような影響を与えるのかを知りたいと思い、フォーラムを聴講しました。漠然と日本は遅れている

印象を持っていましたが、さまざまな機関が連携して日本のとるべき戦略を探っている現状を知り、大変心強く思いました。

・出版および学術情報について取り巻く環境の動向が大いに参考になりました。

・オープンアクセスに関する現状の確認であった。新規性のある内容はあまりなかったが持っている知識を強化することに役立った。

・今回、パネリストにJSTの担当者の方がおられたのが新鮮でした。研究支援の立場から研究者にOAでの論文発表を推進していくことは、図書館側でOAを進めていくことと、表裏一体の関係にあります。両方の担当者がさらに連携して理解を深める必要があると思います。私も、微力ながら、職場で研究支援の担当者にこのフォーラムの内容を伝えました。



武田委員長講演の様子

本誌についてのお問い合わせ

国立情報学研究所 SPARC 担当

E-mail [co\\_sparc\\_all@nii.ac.jp](mailto:co_sparc_all@nii.ac.jp) FAX 03-4212-2375

<https://www.nii.ac.jp/sparc/>